

# 一度、立ち止まって



商学部長

河合 久

Hisashi Kawai

ご卒業おめでとうございます。新たな世界に進むスタートラインに堂々と立つ皆さんの姿を拝見し、教員の一人として感慨を覚えます。

この4年間、皆さんは中央大学商学部というステージで人生の貴重な時間を過ごしたことに間違いありません。この4年間がなぜ貴重なのでしょうか。ゼミでの専攻分野に特化して学問に励んできた場合でも、難関国家試験の準備に専心してきた場合でも、あるいはスポーツ・文化活動に注力してきた場合でも、皆さんは中大生であるがゆえに高いレベルの努力を求められました。その過程では、皆さんの多くが当初の目的を簡単には果せない苦悩を味わったことでしょう。しかし、いかなる状況にも共通する事実は日々の営みが貴方自身の選択によるものであって、しかもそれについて考えることができる時間を多く持てたということです。そして、近くには利害とはおよそ無縁の友人がいたことです。その事実こそが大学生の特権であり、皆さんの貴重な財産であり、社会人として持つべき自立心と責任感の確立に繋がるのです。

日本は今、世界との関わり方を問われています。エネルギー資源をどのように確保すればよいのか。TPPにどのように向き合えばよいのか。もしかしたら、私たちは誰かに守られているという錯覚に甘え、安住に浸り過ぎていたのかもしれませんが。劇的な環境変化に適応すべく、狭い井の中からの脱却を迫られているのではないのでしょうか。この不安定な経済社会は「一度、立ち止まって考え直そう」という私たちへの問いかけでもあると思います。学生生活に区切りを打つ今日、多忙な新生活に奔走する前に、貴方が中央大学で得た具体的な財産とは何か、それらを今後の職業や人生にどのように活かすことができるのか、少しだけ再考してみてください。

最後に、これからの皆さんの人生が大切な家族と共に幸せに満ちたものであることを心よりお祈りいたします。

# 10年先を見つめて



理工学部長

石井 靖

Yasushi Ishii

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。長い学生生活を終えて、社会に飛び出しているこうしている皆さんに、心よりエールを送ります。

理工学部で学んだ皆さんは、最後の1年間は研究室に配属となり、最先端の研究の現場を垣間見たことと思います。1年間という短い期間では、研究成果を上げるまでには至らなかったかもしれませんが、研究室で過ごした日々は皆さんの足腰を鍛えることになったものと確信します。

ところで「最先端の研究」と言って、実際に皆さんが体験したのはどんなことだったでしょうか。多分、今できることを一つ一つ積み上げて形にしていく、そんな作業の繰り返しだったのではないかと思います。しかし、当然のことながら、それぞれの研究テーマには大きな研究の流れの中で据えた目標があります。研究では、地道な作業の中でこの大きな目標を見失わないことがとても大切です。

皆さんはこれからしばらくの間、職場の上司や先輩を見て、1日も早くその社会の一員となれるように、目先のことに追われる毎日をおくるものと思います。しかし、そのような中でも、いつも10年先の自分を見失わないで下さい。10年後にはこうありたいという目標をもって、それに向かって努力して下さい。

6年後に東京オリンピックを控えていても、社会は明るい見通しばかりではありません。その中で、中央大学で育んだ理工マインドを武器に、皆さんが10年後に大きく成長されていることを祈って、お祝いの言葉と致します。